

伝統の和歌浦アサリの復活を目指して

和歌浦活性化活動組織

和歌浦地区について

和歌浦地区は、和歌山県和歌山市の南西部にあり、和歌浦湾に面す。国指定の名勝であり、万葉集にも詠まれた風光明媚な景勝地である。

当該地区の東側には和歌川が流れる。川の河口出口には延長1km以上の細長い砂州の半島が形成され、海に面した場所の砂浜は多くの海水浴客でにぎわう。



和歌川河口干潟

海水浴でにぎわう砂州の半島の河口側には、関西屈指の広さを誇る和歌川河口干潟が広がっている。

干潟には、アサリや絶滅危惧種のハクセンシオマネキなど多くの生き物が生息している。また、市民の貴重な「潮干狩り場」になっており、貴重な観光資源の一つとなっていた。

しかし、十数年前まで良く採れていたアサリが、激減し、平成20年を最後に潮干狩りが中止された。アサリが激減した理由は、乱獲、餌の減少、水温上昇、食害など様々な要因が考えられている。そして、現在は、食害対策によって自生するアサリ稚貝を保護し、育てることが喫緊の課題となっている。



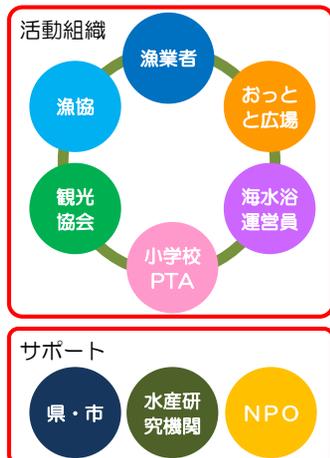
アサリ資源再生活動のスタート

潮干狩りが中止された平成21年から食害対策として被覆網によるアサリの再生活動が、当時、干潟を管理していた和歌川漁協で行われるようになった。しかし、平成26年に当漁協が解散し、活動の継続が問題となった。

そうした中、近隣の和歌浦漁協が活動を継承し、「和歌浦活性化活動組織」を平成27年度に設立し、アサリ資源の回復に向けた取り組みを再スタートさせた。

当組織の目標は、①アサリ資源の回復による潮干狩り場の復活、②次世代を担う子どもの干潟や海に対する興味・関心の喚起、③漁村である和歌浦地区の活性化。

体制は、地域一体の取り組むとなるよう、多様な主体で構成した。



再生活動の内容

アサリ資源回復に係る被覆網を用いた保護・育成は、県の単独事業を活用し実施している。また、以下の取り組みは、水産多面的発揮対策事業（以降、多面的事業）を活用し実施している。

(1) ツメタガイ除去活動

アサリ生産向上を目的とした干潟全体の管理として、資源再生の阻害要因の一つに挙げられるツメタガイ除去を5～11月にかけて実施している。4ヶ年でツメタガイ6,675個、卵かい13,025個除去した。

(2) 稚貝捕集方法の検討

網袋を活用した効率的なアサリ稚貝捕集方法の検討を、国の機関である瀬戸内海区水産研究所や和歌山県水産試験場のサポートのもと実施。

検討した方法は、カキ殻方式と大野方式の2つである。大野方式は、春季に、稚貝が良く集積する場所を選定し、その場所の稚貝を砂ごと網袋に入れ、干潟上で夏季まで保護・育成する方法で、広島県の前潟干潟研究会が多面的事業を通じて考案したものである。

(3) 総合学習の場の提供

地元の和歌浦小学校3年生を対象に、環境教育のノウハウをもつNPOと一緒に学習会を開催している。学習会は年3回行う。1回目は干潟やそこで暮らす生き物を学ぶ「導入授業」。2回目は和歌浦河口干潟におけるアサリの現状と保全の取り組み。3回目はアサリの保護活動を体験する「なよ竹部屋づくり」を行っている。



活動の成果と課題

平成21年度からスタートしたアサリ資源再生の取り組みによって、資源量が徐々に回復してきた。ただし、ほとんどのアサリが被覆網下で育成しており、対策を講じない場所での生息密度は10個/m²と未だその波及効果が得られていないのが現状である。かつて潮干狩り客でにぎわった干潟を目指し、今後も、活動を継続していく必要がある。

